（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	狩俣繁久	所　属	国際言語文化学科　琉球アジア文化専攻	職　名	

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	(1)共通教育1コマ、学部5コマ、大学院5コマ、合計11コマの講義を担当する。 (2)上記科目へ留学生、社会人を受け入れる。 (3)大学院博士課程前期の実習科目（野外調査）を実施し、学生の実践的な調査研究能力を高める。	0.30	(1)共通教育1コマ、学部5コマ、大学院5コマ、合計11コマの講義を担当した。 (2)上記科目へ留学生、社会人を受け入れた。 (3)大学院博士課程前期の実習科目（野外調査）を実施した。
研究	0.30	(1)科研費基盤(A)「 」の研究代表者として研究を総括する。 (2)科研費基盤(A)の研究ための臨地調査と資料整理を実施する。 (3)科研費「近世琉球社会における言語運用の諸相に関する総合的研究」（分担者）の研究のための臨地調査と資料作成を行なう。 (4)科研費「琉球宮古方言の言語地理学的な研究」に分担者として臨地調査と資料収集を行なう。 (5)沖縄言語研究センターの公開研究会で研究発表する。 (6)『日本東洋文化論集』19号に論文を投稿する。 (7)沖縄国際大学南島文化研究所紀要『南島文化』に論文を投稿する。 (8)法政大学沖縄文化研究所紀要『琉球の方言』に論文を投稿する。 (9)琉球大学琉球アジア社会文化研究会誌『琉球アジア社会文化』に投稿する。 (10)日本言語学会秋季大会で発表するよう投稿する。 (11)国際沖縄研究所若手研究者育成プログラムのワークショップを開催する。 (12)国際沖縄文化研究所「新しい島嶼学」のシンポジウムを開催する。	0.30	(1)科研費基盤(A)「 」の研究代表者として研究を総括した。 (2)科研費基盤(A)の研究ための臨地調査と資料整理を実施した。 (3)科研費「近世琉球社会における言語運用の諸相に関する総合的研究」（分担者）の研究のための臨地調査と資料作成を行った。 (4)科研費「琉球宮古方言の言語地理学的な研究」に分担者として臨地調査と資料収集を行なった。 (5)沖縄言語研究センターの公開研究会で3回研究発表した。 (6)『日本東洋文化論集』19号に論文を投稿し、掲載された。 (7)沖縄国際大学南島文化研究所紀要『南島文化』に論文を投稿できなかった。 (8)法政大学沖縄文化研究所紀要『琉球の方言』に論文を投稿し掲載された。 (9)琉球大学琉球アジア社会文化研究会誌『琉球アジア社会文化』に投稿し掲載された。 (10)日本言語学会秋季大会で発表した。 (11)国際沖縄研究所若手研究者育成プログラムワークショップで研究発表した。 (12)国際沖縄文化研究所「新しい島嶼学」のシンポジウムでパネリストとして参加した。
社会貢献	0.10	(1)国立国語研究所の全国方言調査委員を務める。 (2)国立国語研究所の危機方言研究委員を務める。 (3)国立国語研究所客員教授を務める。 (4)日本方言研究会（全国組織）研究運営委員を務める。 (4)恩納村教育委員会編『恩納村の方言』の編集委員長を務める。 (5)県立博物館美術館のシマクトゥバプロジェクトの企画運営に携わる。 (6)名護市幸喜方言辞典作成のための臨地調査を行い、辞典を編集する。 (7)読谷村史編纂委員を務める。	0.10	(1)国立国語研究所の全国方言調査委員を務めた。 (2)国立国語研究所の危機方言研究委員を務めた。 (3)国立国語研究所客員教授を務めた。 (4)日本方言研究会（全国組織）研究運営委員を務めた。 (4)恩納村教育委員会編『恩納村の方言』の編集委員長を務めた。 (5)県立博物館美術館のシマクトゥバプロジェクトの企画運営に携わった。 (6)名護市幸喜方言辞典作成のための臨地調査を行った。 (7)読谷村史編纂委員を務めた。
管理運営	0.20	(1)法文学部副学部長を務める。 (2)法文学部地域貢献支援委員会委員長を務める。 (3)法文学部国際言語文化学科長を務める。 (4)法文学部広報委員会委員を務める。 (5)日本語教育副専攻の主任を務める。	0.20	(1)法文学部副学部長を務める。 (2)法文学部地域貢献支援委員会委員長を務める。 (3)法文学部国際言語文化学科長を務める。 (4)法文学部広報委員会委員を務める。 (5)日本語教育副専攻の主任を務める。
進路指導	0.10	(1)大学院進学希望の学生を指導する。 (2)ゼミ学生（3年生、4年生）への就職、進学について指導する。 (3)大学院生への就職、進学について指導する。	0.10	(1)大学院進学希望の学生を指導した。 (2)ゼミ学生（3年生、4年生）への就職、進学について指導した。 (3)大学院生への就職、進学について指導した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	宮平　勝行	所　属	法文学部国際言語文化学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	シラバスに基づいて計画的に講義を行う。学部教育においては対話を重んじた参加型の講義を目指す。留学生も受講できる英語講義を提供し，日本人学生との交流を図る。大学院教育においては受講生が国際的な視野を養えるように英文の教材を中心とした講義を行う。大学院生（１人）の修士論文指導を丹念に行う。	0.30	参加型の講義を重んじた学部の授業は概ね計画通り実施することができた。英語講義のクラスは留学生の貢献もあってグローバルな視点から現代社会の課題について討論し見識を高めた。修士論文を指導した大学院生は無事９月に全課程を修了した。大学院の講義は受講生が少なかったが，おかげできめ細かい授業を徹底して実施することができた。
研究	0.30	２年目に入る基盤研究（C)「継承沖縄語と大和沖縄語～談話構造とコミュニケーション方略の国際比較研究」を精力的に進める。具体的には，10代と20代の若い男女が用いる大和沖縄語の自然会話を収録し，トランスクリプトの作成を手がける。できれば60代～70代の人々が話す日常会話も収録しトランスクリプトを作成，被験者の一部を対象に聞き取り調査を行う。	0.30	基盤研究（C)は予定通り10代と20代学生を対象にグループインタビューを実施し，自然会話データを収録した。更に米国ロサンゼルスにおいて沖縄県人会会員を対象に自然会話データを収録し，聞き取り調査を実施した。これらの音声・映像データのトランスクリプト作成を鋭意進めているところであるが，当初の計画よりは遅れている。新刊「異文化コミュニケーション事典」の４項目を執筆した。
社会貢献	0.10	平成２４年度教職免許更新講習の一環として「英語スピーチの基礎と応用」という名称で講義する。琉球大学欧米文化同窓会の事務局長として学生の育英活動に取り組む。学外の希望者に対して本学で提供している講義を公開する。	0.10	教職免許更新講習は計画通り８月に実施し，受講生からは比較的高い評価を得ることができた。琉球大学欧米文化同窓会では学生の育英事業を中心に一年を通して事務職の仕事を全うした。県内における高校生英語弁論大会や英語ディベート大会の審査員や審査委員長を務めた。
管理運営	0.20	法文学部代表の教授職員会代議員として様々な事業を積極的に推進する。人文社会科学研究科後期課程の「年報」の編纂に当たる。法文学部国際交流委員として学生の海外派遣や留学生の受入などに関する業務を推進する。	0.20	教授職員会の執行部として本学における労働環境の改善を図った。また，国際沖縄研究所の運営委員として組織の円滑な運営に微力ながら尽力した。法文学部の国際交流委員として，新しく導入された「留学生交流支援制度」に向けて作業班として計画書をまとめて文科省に提出した。本年度も人文社会科学研究科の「年報」の編集を担当し，刊行の運びとなった。
進路指導	0.10	国際言語文化学科英語文化専攻３年次（夜間主）の指導教員として，社会の一線で活躍する卒業生を招いて進路説明会を実施する。指導学生と指導教員のためのメーリングリストを運用し，相互のコミュニケーションの円滑化を図る。教育実習に参加する学生を励まし，研究授業へ参加する。学科・専攻が一丸となって取り組む就職・進学に関する啓蒙活動に協力する。	0.10	指導学生が３年次となり，進路や留学に関する相談が多くなった。そのための就職・進学に関する啓蒙活動を個別に行った。指導学生との連絡網としてメーリングリストを運用し，学生とのコミュニケーションを促進した。教育実習にも参加し，実習学生を励ました。大学生としての論文執筆の心得についても指導した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	石川隆士	所　属	法文学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	（1）大学院前期週3コマ、後期週3コマ、学部前期週5コマ、後期5コマ、計16コマの授業を行う。（他にノルマ外で卒論指導3人）（2）大学院の「アングロアイリッシュ文学特論」、学部専門科目の「イギリス文学概論」、「イギリス文学演習II」、「現代イギリス文学」は専門領域である英文学について平成20年度、平成21年度に執筆した論文の研究成果を反映させる。		(1)予定された計画以外に、卒論をプラス1人指導した。（2）については予定通り実行された。
研究	0.25	（1）「風の詩学」に関する論文を1本執筆する。		うない研究センターの研究補助者支援制度の援助を得て論文を執筆し、全国学会紙『イェイツ研究』に3月15日締め切りで投稿予定であったが、同学会の編集委員に推挙されたため、名誉あることとして受諾し、投稿を断念した。現在投稿先を模索中である。
社会貢献	0.05	（1）沖縄国際大学での「英米詩概論の授業を週2コマ担当し、専門領域である英詩について平成19年度、20年度、平成21年度に執筆した論文の研究成果を反映させる。		（1）予定された通りに実行された。それ以外に平成25年度沖縄県のキャリア教育事業「高校生等のためのキャリア形成支援プログラム事業」の大学部門のリーダーを務めた。さらに出前講座を例年を上回る5件担当し、琉球大学のアピールに努めた
管理運営	0.30	（1）大学教育センター副センター長として全学の共通教育科目の運営にあたる。（2）アドミッション・オフィス実施部門長としてアドミッションオフィスの実施にあたる。（3）入学者選抜方法等検討委員会委員として入試の運営にあたる。		（1）（2）（3）については予定された通り実行された。それ以外に、大学院の領域主任、10月に採択された大学間連携事業の英語評価委員、大学広報委員の法文学部代表、全学学士プログラム委員会副委員長、法文学部進路支援委員会の副委員長及び進学支援WGリーダーの仕事を行った。
進路指導	0.15	（1）3年次指導教員として、進路を射程に入れた修学相談、指導を行う。（2）卒論担当の学部生に進学、就職についての指導を行う。（3）修論指導の大学院生に進路を射程に入れた修学相談、指導を行う。		（1）は予定通り実施した。特に交換留学を含む留学の相談を多く実施した。（2）は卒論生全員の就職、進学が決まった。特に進学に関しては本学大学院人文社会科学研究科への進学(一人)となった。（3）予定通り実施された。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙1） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	石原昌英	所　属	法文学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	1）大学院前期・後期の指導教員及び副指導教員として、効果的な教育及び指導助言を行う。 2）学部教育では、学生が授業に参加できように、授業内容・方法を工夫する。 3）大学院教育では、少人数教育の利点を活かして学生との討論形式の授業を実施する。	0.00	・大学院前期・後期の指導教員として、特別演習（前期）、総合演習（後期）、特別研究（後期）の授業等を通して、論文執筆に向けて指導を行った。1名は修士論文を提出し、修士課程を修了した。副指導教員としては、総合演習（後期）でのコメントを通して助言を行った。また、前期の学生については、アンケートについてコメントをした。 ・学部教育においては、大学英語（共通）と言語コミュニケーション特論（専門）でグループ討論等を取り入れた授業を実施した。専門の授業では、さらに工夫が必要である。 ・大学院の講義では、日本語・英語の文献を読ませ、その内容について学生と議論した。前期課程の授業で、学生による積極的な発言を促す必要がある。
研究	0.30	1）言語権・言語とアイデンティティ関連の研究を進める。 2）沖縄・北米におけるウチナーグチ継承について論文を執筆し、全国誌等に投稿する。 3）エボニックス（黒人英語）に関する研究を進める。 4）「トラベル・ライティング」の科研費研究（山里勝己代表）に参加し、琉球・沖縄における言語接触と外国語学習に関する研究を進める。 5）北米における琉球芸能文化及び沖縄語の継承をテーマに科研費（代表または分担者）に応募する。	0.00	・（1）と（3）については、文献・資料を集めるだけで終わってしまったので、分析・考察が必要である。 ・2）については、3編の論文を書いたが、2編は国際沖縄研究所のプロジェクト報告書での発表、1編はオランダの出版社から刊行されるハンドブックに掲載される。全国誌への投稿ができなかったので、改善の必要有り。 ・『琉球大学　人の移動と21世紀のグローバル社会』叢書の第7巻・第8巻を共編した。第7巻（山里勝己・石原昌英編）『＜オキナワ＞人の移動、文学、ディアスポラ』では「人の移動と文学の言語―あとがきにかえて」を執筆し、第8巻（我部政明・石原昌英・山里勝己編）『人の移動、融合、変容の人類史―沖縄の経験と21世紀への提言』では論考「人と移動と言語の移動」を執筆した。 ・国際シンポジウム『島嶼地域における言語復興』を企画し、「琉球における言語危機と言語復興」を発表した。 ・文化庁国語課の委託を受け、危機的な状況にある言語・方言の保存・継承にむけた取組に関する調査を共同研究で実施し、報告書にまとめた。 ・科研費研究については、琉球王朝時代における欧米のトラベルライティングに関する翻訳資料（文献）を収集した。また、ハワイにおける欧米人とハワイ人の言語接触に関する文献を調査収集した。 ・科研費（代表または分担者）としての申請はできなかった。
社会貢献	0.05	1）　ウチナーグチ継承に関する研究の成果を新聞等で公表する。 2）　教員免許更新講習の講座を担当する。 3）放送大学の面接授業を担当する。	0.00	・『沖縄タイムス』『琉球新報』でシンポジウム告知文も含めて、ウチナーグチ継承について研究成果等について執筆した。 ・『琉球新報』『日本経済新聞』『毎日新聞』『西日本新聞』の記者の質問に答える形で、ウチナーグチ継承に関する研究成果を公表した。 ・琉球大学及び石垣市において教員免許講習の講座「英語らしい英語の発音」を担当した。受講生のアンケートによると、内容は好評であった。 ・放送大学の沖縄学習センターの面接授業で「英語らしい英語の発音」を担当した。実践（発音）を多く取り入れた授業を行い、受講生には好評であった。
管理運営	0.20	1）言語コミュニケーション領域主任として円滑な領域運営に努め、職制で参加する研究科委員会での職務を遂行する 2）大学評価センター長として、全学的な評価業務を遂行する。 3）学部・学科等の委員会業務を円滑に進める。 4）学長特別補佐（カリキュラム担当）として、全学的な取組を補佐する。	0.00	・研究科領域主任として、会議（メール会議を含む）での審議を通して、円滑な領域運営を行った。学生の発表（年2回）を実施した。研究科のFD推進委員会の委員長を務め、前期・後期に大学院FDを開催した。 ・大学評価センター長として、法人評価・認証評価関連での職務を遂行した。学部等の意見を参考に「教員活動評価」の見直しを行った。 ・入試委員会委員として、専攻の入試業務を遂行した。 ・学長特別補佐として、25年度の年度計画の策定等に関わった。25年度から新設される「琉球学副専攻」の設置に向けてWG・設置委員会の委員長として、副専攻設置に関する審議をまとめた。
進路指導	0.15	1）夜間主2年次の指導教員として、就職・大学院進学等に関連する情報の周知を図る。 2）高学年次の学生からの進路相談があった場合には、適切な助言ができるように務める。	0.00	・夜間主2年次の指導教員として、就職センターの活用を奨励するとともに、進路に関する情報を数多く提供した。 ・高年次学生からの進路相談については、教員採用試験および大学院進学について助言をおこなった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	0.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	吉田　兼次	所　属	法文学部国際言語文化学科英語文化専攻	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.70	講義5コマを担当しているので、大きなウエイトを占めることになる。学生に講義内容をよく理解してもらえるよう日々教材研究に努めたい	0.70	講義の準備には十分時間をかけ、教室では懇切・丁寧な説明を心がけた。
研究	0.20	教育、管理運営、進路指導に費やす時間以外の時間を研究に充てることになる。少なくとも論文1本の執筆を目標とする	0.10	論文は執筆中であるが、完成には至らなかった。次年度に継続する目標である。
社会貢献	0.00	教育という社会貢献以外に特に目標はない	0.00	教育は職業であると同時に社会に対する使命である。
管理運営	0.05	専攻内の予算委員長、また専攻代表の学部予算委員、また人文社会研究科小委員会の欧米文化領域代表委員として責任を果たしたい。	0.10	予算委員長として、大学から割り当てられる専攻の予算と法文学部教育後援会の予算の管理という責任を十分に果たした。
進路指導	0.05	指導学生の卒業・就職・進学へ向けて責任をもって指導したい。	0.10	学期毎の登録期間においては大学生活にまだ不慣れな1年次指導学生に正確な情報をメールで伝えた。また、指導学生からの履修・進路に関する面談による相談依頼に数回応じた。
	0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	吉井　巧一	所　属	法文学部・国際言語文化学科・ヨーロッパ文化専攻	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	(1)楽しく効果の上がる学習者中心の授業をさらに進め、外国語教育の充実をはかる。(2)各種FD活動の機会を活用し、授業技術のレベルアップに努める。(3)提携校からの留学生を授業補助者として有効活用する。(4)テニス部顧問として学生の指導に当たる。	0.30	(1)Webクラス・ビデオ会議クラスを開講するなど、目標を十分達成できた。(2)各種FD講習会に参加し、目標を達成できた。(3)目標を達成できた。(4)目標を達成できた。
研究	0.30	(1)各種ドイツ語関係のワークショップ(DaF-Werkstatt)に参加する。(2)「海外文化研修」引率の機会を利用し、ドイツ・デュッセルドルフ大学にて、外国語教授法に関する最新の研究資料を収集する。	0.30	(1)目標を達成できた。(2)予定通り、当初の目標を十分達成できた。(3)その他、和独辞典（三修社）を編集出版した。
社会貢献	0.20	(1)沖縄日独協会理事、沖縄県人材育成財団試験委員、国立沖縄高等専門学校及び沖縄県立芸術大学非常勤講師として、沖縄県におけるドイツ語・ドイツ文化の普及に協力、貢献する。(2)要請があれば、NHK等の各種報道機関等でドイツ語通訳・翻訳の補助をする。(3)担当の「インテンシブドイツ語I・II」のクラスを公開授業とする。	0.20	(1)目標を達成できた。(2)本年度はそのような機会がなかった。(3)目標を十分達成できた。
管理運営	0.10	法文学部教育委員・施設委員としての職務を遂行する。	0.10	目標を達成できた。
進路指導	0.10	指導教員として、大学就職センター等を活用しつつ学生の進路指導・就 職指導を進める。	0.10	目標をほぼ達成できた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	鈴木正士	所　属	法文学部・国際言語文化学科・ヨーロッパ文化専攻	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	週8コマを担当する。授業における欠席者や遅刻する学生に対して、理由を尋ね解決策をともに考え、より積極的な授業参加を促す。レポートの書き方を指導する。オフィスアワーを定め、学生の質問や相談に応じる。理解力不足の学生に個別に学習指導する。	0.30	週8コマを担当した。授業における欠席者や遅刻する学生に対して、理由を尋ね解決策をともに考え、より積極的な授業参加を促した。レポートの書き方を指導した。オフィスアワーを火曜日と金曜日の昼休みに定めランチを一緒にとりながら、学業だけでなく生活一般の悩み事や質問、相談に応じた。くわえて、理解力不足の学生に個別に学習指導した。
研究	0.20	『ドン・キホーテ』に関する論文を学会誌,、または紀要に投稿する。6月にオビエド大学（スペイン国）で行われる、3年に一度開催のセルバンテス国際学会において『ドン・キホーテ』に関する研究発表を行う。	0.20	『ドン・キホーテ』に関する論文を紀要『琉球大学欧米文化論集』に投稿した。２０１２年6月にオビエド大学（スペイン国）で行われた、3年に一度開催のセルバンテス国際学会において『ドン・キホーテ』に関する研究発表を行った。
社会貢献	0.10	地域貢献委員として地域貢献のための具体的な計画の立案・実施に励む。	0.10	地域貢献委員として会議に出席し、地域貢献のための具体的な計画の立案・実施に励んだ。
管理運営	0.20	ヨーロッパ文化専攻の専攻課程主任をつとめ運営に率先してあたる。教員養成営委員をつとめ、教職を志望する学生の指導・教育にあたる。地域貢献委員をつとめ地域への教育学術の寄与につとめる。教育後援会の学内理事をつとめ、学生教育の向上と教育後援会費納入の増加に努める。全学の風樹館委員をつとめ大学内の文化資産の管理運営にあたる。	0.20	まず、ヨーロッパ文化専攻の専攻課程主任をつとめ運営に率先してあたった。さらに、教員養成営委員をつとめ、教職を志望する学生の指導・教育にあたった。地域貢献委員をつとめ地域への教育学術の寄与につとめた。教育後援会の学内理事をつとめ、学生教育の向上と教育後援会費納入の増加に励んだ結果、納入増加となった。全学共通の風樹館委員をつとめ大学内の文化資産の管理運営にあたった。
進路指導	0.20	学生の進学・就職に関し、必要に応じて指導・助言する。就職センター	0.20	学生の進学・就職に関し必要に応じて指導・助言した。就職センターの存在を知らせ就職講演会への出席をはかるなど、学生の就職意識を高めた。本年度は大学院への進学希望者はいなかったが、メキシコ政府留学を希望する学生がいたため、受験に対しての指導をおこない、推薦書を書き、合格のための助言・指導をおこなった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	西森和広	所　属	法文学部国際言語文化学科ヨーロッパ文化専攻	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	共通教育科目、前期・後期、各3科目を担当。専門科目、前期4科目・後期3科目を担当（卒論を除く）。	0.40	年初設定通りの科目を提供し、卒業論文の指導も行った。
研究	0.30	セルジオ・レオーネ研究、及びポール・ヴェルレーヌ研究を継続する。論文1本以上を含み、その他研究ノート・エッセイ等を総計２本以上を執筆。	0.30	年初計画の通り、レオーネ研究ノート1篇、ヴェルレーヌ研究論文1篇を執筆、公刊した。
社会貢献	0.05	高校生対象の公開講義を、前期・後期各1件、提供する。	0.05	年初計画通り、前期に「文学の楽しみ」、後期に「フランス語I」の公開講義を行った。
管理運営	0.15	自己評価関連の全学及び学部の委員会委員を務める他、学部の紀要委員会委員等、数種の学部委員会委員を担当。また学生演劇部の顧問を務める。	0.15	年初計画通り、各種の委員会活動に参加した。また学生演劇部の顧問を務めた。
進路指導	0.10	所属専攻課程４年次生の指導教員、及び進路指導の委員を担当。	0.10	年初計画通り、4年次の指導教員及び進路指導委員を務め、専攻卒業生を送り出した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	デルバール・フランク	所　属	法文学部国際言語文化学科ヨーロッパ文化専攻	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.50	1）卒論指導：1名　　2）日本人学習者向けのフランス語文法書執筆　　3）DELF（フランス教育省によるフランス語能力試験）のB2レベルを受けたい学生の授業外の支援活動	0.60	1）うまく行きました。　2）長期的な作業ですので、一部的にできましたが、来年度より授業中でも発行できた部分を実践的に試す予定です。執筆完了は来年度か再来年度予定。　3）うまく行きました。続く予定です。
研究	0.40	小論文発行2部と学会においての発表二回	0.30	発表は予定通りに両方ともできました。小論文は1部の発行が確認されましたが、もう1部はまだ審査中です。
社会貢献				
管理運営	0.10	1）エコ・キャンパス21　　2）大学将来企画委員会	0.10	1）も2）も特に指摘するべきの物はありません。
進路指導				
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。